

## 近世節用集刊行年表稿

佐藤 貴裕

本稿は、近世節用集の刊行状況の俯瞰を目的とした年表である。したがって、最終的には刊行されたもののみすべてが掲載対象となるが、年表であることを考慮して、次のようなものを載せることになった。

- ・ 現存の確認されるもので、刊年の明らかなもの
- ・ また、付録記事などにより刊年の推定できるもの
- ・ 江戸本屋仲間の『割印帳』に記載されるもの
- ・ 版權問題記録などで刊行が確認できるもの

この条件にあてはまらないもの、すなわち、現存していても刊年の推定に十分な手掛かりがない一五本は年表末尾に別掲した。たとえば次のような諸本は、その成立の上限がほぼ確定できるのだが、下限を定める手掛かりにとぼしいので掲載しなかったのである。

『福寿節用綱鑑』（岡島昭浩氏蔵）。『二体節用集』（寛文三年刊）の改題本か。

『初学節用集大成』。巻頭に挿絵付き付録があり、本文にも頭書があり元禄初年以降刊行と推定。

『増字百倍』改正早引節用』。早引節用集なので宝暦以降の刊行。

なお、本稿の元になったのは、佐藤（一九九六）「近世節用集書名変遷考——資料篇・付言——」であり（以下「前稿」と称する）、右の掲載基準もこれに準ずるものである。ただし、掲載しなかった諸本について一切言及しなかったこともあって、前稿に掲載がないものについて新出書・未紹介書などとして紹介する向きもあったようである。

前稿と本稿との異なりはいくつかあるが、掲載した節用集については、前稿が掲載漏れをおそれて節用集の同定範囲を広く設定したため、いわゆる語彙集型往来物の類を積極的に載せていたのだが、本稿では極力排除することとした。節用集と語彙集型往来との線引きは微妙な部分があるのだが、本稿では、検索組織が二重にほどこされていくか否か、によることとした。語彙集型往来では、ほとんどのものが意義分類体を探っているが、さらにその下位を何らかの標目を明示しながら細分することがない。これに対して節用集では、その成立の当初からイロハと意義分類による二重ないし二層の検索法を導入しており、検索への指向が高く、辞書としてより利用しやすい組織を備えると考えられるからである。

このほか、やはり刊年の絞りこみに無理のあるものなど、情報不足のものも省くこととした。こうした一連の作業により、前稿より三〇本強ほどが対象からはずれることになった。

一方では、前稿公開から一〇年以上を経ていることもあり、新たに追加することができたものも少なくない。

また、各本の取扱い方を見直したものもある。ことに元禄年間までのものについては、同版で同年の刊記を有するものでも書肆名が異なればそれぞれに一本と認めるなどした場合がいくらかある。それらを総合すると、素のデータとしては旧稿よりも一〇〇本ほど多くなるのだが、年表形式を採るためにいくらか圧縮されることになった。

おおよその傾向としては、前稿で見られたものとはほぼ変らないことになる。刊年が再確認されたものも少なくはないので、付録記事などから刊年を推定したものが一七〇一〜二〇年に集中するのが、いくらかでも解消されるかとも期待されたが、この点もうまきは進んでおらず、前稿と同様に考えることになった。

が、一〇年以上たっても同様の仕儀であるということ、やはり一八世紀初頭に開版された節用集にあつては何らかの特殊な事情が存したことを、改めて裏付けたともいえよう。

前稿では、当時の節用集が何らかの事情により物理的なもろさをかかえていたために、刊記が脱落しやすかつたのではないかと考えたのであつた。たしかに、当時の

節用集を見ると、いずれも薄冊であつて、料紙も薄手のものが多いように印象される。もちろん、単に薄いといつても、薄葉摺りに使用するような緻密さのあるものではないのである。

とすると、やはり前稿でも挙げた、文書料紙にかかわる宝永二年・正徳三年の触れとの関係が気になつてくる。

一 従町方、三番所江書上候儀、当分之書物は文字體二相見候ハ、匱相成紙用之可申候、未々迄相残候諸証文等は、有来通之紙二相認可申候

一 右二准シ、町年寄又ハ名主共方え取置候書物も、匱相成紙可用之候（『御触書寛保集成』）

文脈からすると、「書物」はシヨモツ（書籍）ではなく、カキモノとみるべきであろうから、この触れが直接に節用集の料紙を決定したとは言いがたい。が、この触れの底にある儉約への指向が、節用集などの実用的書籍にもおよぶような状況があつたことは想定しておいてよいかと思ふ。

#### 参考文献

柏原司郎（一九七三）「近世初期『節用集（横本）』の改

板例（上）」『野州国文学』一一一

柏原司郎（二〇〇二）「古版本節用集の近世的書入について」『湘南文学』三六

川瀬一馬（一九四三）『日本書誌学之研究』講談社（一九七二復刊）

菊田紀郎（二〇〇二）「近世節用集刊行時期の推定の試み」

『人・ことば・文学（菊地靖彦教授追悼論集）』鼎書房

佐藤貴裕（一九九六）「近世節用集書名変遷考——資料篇

・付言——」『岐阜大学教育学部研究報告人文科学』四四—二

高梨信博（一九九二）「近世前期の節用集」『辻村敏樹教授古稀記念』日本語史の諸問題』明治書院

高梨信博（一九九六）『真草二行節用集』の版種』『国文学研究』一一九

高梨信博（一九九八）「未紹介の近世節用集の二、三について」『早稲田日本語研究』六

高梨信博（二〇〇六）「四十四部系近世節用集の成立」『国文学研究』一五〇

山田忠雄（一九六一）『開版節用集分類目録』（私家版）

安田 章（一九七四）「〔節用集二種〕解題」『天理図書館

善本叢書和書之部』二一（八木書店）。『中世辞

書論考』（清文堂出版）再録

若杉哲男（一九八〇）「女用語彙と男用語彙（一） 女節

用集文字袋と男節用集如意宝珠大成」『仁愛女子

短期大学紀要』一二

若杉哲男（一九八六）「女節用集文字袋と女重宝記の語彙」

『東横国文学』一八

近世節用集刊行年表稿

\*近世刊行節用集のうち、刊年の明確なもの、刊行時期が比較的狭く推定できるものの内題を一覧した。

元来内題を有しないものは外題等を採用した。

\*書名は角書・尾書（沓書）を省略したが、同名書が頻出するなどの場合は、同定の便のため角書を（ ）に包んで示した。

\*諸本のなかには、刊年・成立・書肆・判型など、当該書の同定にかかわる若干の注をほどこすことがある。

\*出版界の動向についても最小限の記事を併記した。

慶長2（一五九七）年

『節用集』（易林本原刻・平井版・同別版）の跋年。

慶長10（一六〇五）年

安田章（一九七四）、易林本平井版がこの頃開版された可能性に言及。

慶長15（一六一〇）年

『節用集』（易林本小山板）『節用集』（寿閑本。初の行草書表示）刊。

川瀬一馬藏『節用集』（易林本平井別版）にこの年の書き入れあり。

慶長16（一六一二）年

『節用集』（烏丸通二条二町上之町刊本。初の真草二行体。寿閑本に楷書表示を追加）刊。

慶長頃

『節用集』（草書本。版三種あり）刊。

元和5（一六一九）年

『節用集』（横本。源太郎版）刊。

元和・寛永初年頃

『二体節用集』刊（横本）

寛永3（一六二六）年

『二体節用集』（横本。嘉久版）刊。

寛永6（一六二九）年

『二体節用集』（横本）『節用集』（中野版）刊。

寛永7（一六三〇）年

『節用集』（杉田版。横本を縦本に版下レベルで組み直したもの）刊。

寛永9（一六三二）年

『二体節用集』（縦本。杉田版・無書肆版）刊。

寛永10（一六三三）年

『二体節用集』（横本。佐藤藏。刊記刊年の「十」は手書き）刊。

寛永12（一六三五）年

『節用集』（中野版。『節用集』寛永六年刊本（二巻本）を三巻本に改修）刊。

寛永14（一六三七）年

『二体節用集』（横本。亀田文庫藏、三五郎版。刊年の「十四」は手書）刊。

寛永15（一六三八）年

『真草二行節用集』（西村又左右衛門<sup>（イサノ）</sup>版・無書肆版）刊。

寛永16（一六三九）年

『真草二行節用集』刊。

寛永21（一六四四）年

『二体節用集』（横本）刊。

寛永年間

『節用集』（亀田文庫本零本）このころ刊か。  
正保3（一六四六）年

『真草二行節用集』（仲秋版、仲冬版）刊。

慶安3（一六五〇）年

『真草二行節用集』刊。

慶安4（一六五二）年

『真草二体節用集』『真草二行節用集』刊。

明暦三（一六五七）年

・諸商人仲間解散令に「物之本屋」もあがる。

万治元（一六五八）年

『真草二行節用集』刊。

万治2（一六五九）年

『真草二行節用集』『二体節用集』刊。

寛文元（一六六一）年

『真草二行節用集』刊。

寛文2（一六六二）年

『真草二行節用集』（増補本）刊。

寛文3（一六六三）年

『真草二行節用集』『二体節用集』刊。

寛文4（一六六四）年

『新刊節用集』『真草二行節用集』刊。

寛文5（一六六五）年

『真草二行節用集』（増補本）『真草二行節用集』刊。  
・このころ、書籍目録が初めて刊行される。

寛文10（一六七〇）年

『真草二行節用集』『頭書増補二行節用集』『二行節用集』刊。

寛文11（一六七二）年

『増補二体節用集』刊。

延宝2（一六七四）年

『二行節用集』（松会版・近江屋版・古本屋版）刊。

延宝3（一六七五）年

『真草増補節用集』刊。

延宝4（一六七六）年

『増補二行節用集』跋。

延宝7（一六七九）年

『頭書節用集』『頭書増補二行節用集』刊。

延宝8（一七八〇）年

『合類節用集』『新刊節用集大全』『頭書増補二行節用集』刊。

『翰墨節用集身宝大成』このころ刊。

延宝9（一七八二）年

『増補頭書両点二行節用集』『頭書増補二行節用集』『二行節用集』刊。

貞享元（一六八四）年

『頭書增補節用集大全』（天和4）『頭書增補二行節用集』刊。

貞享2（一六八五）年

『頭書增補節用集大全』（小野版、伊勢屋版）刊。

貞享3（一六八六）年

『広益二行節用集』『頭書增補節用集大全』刊。

貞享4（一六八七）年

『増補頭書兩点二行節用集』『頭書增補節用集大全』刊。

貞享5（一六八八）年

『頭書增補節用集綱目』『頭書增補節用集大全』『鼈頭節用集大全』刊。

元禄元（一六八八）年

『頭書大成節用集』刊。

元禄2（一六八九）年

『頭書增補節用集綱目』『頭書增補節用集大全』『頭書大成節用集』『二体節用集』刊。

元禄3（一六九〇）年

『大極節用国家鼎宝三行綱目』『頭書增補節用集大全』

『頭書大益節用集綱目』『新撰節用集』刊。

元禄4（一六九一）年

『頭書增補節用集大全』（大野木版・松会版・鎰屋版）『頭書大広益節用集』刊。

元禄5（一六九二）年

『頭書增補節用集大全』（須原版・松会版）刊。

元禄6（一六九三）年

『広益字尽重宝記綱目』『大広益節用集』『頭書增補節用集綱目』刊。

元禄7（一六九四）年

『頭書增補節用集綱目』『頭書增補節用集大全』（寸原版・藪田版）『万宝節用集』刊。

元禄8（一六九五）年

『頭書節用集』『頭書增補節用集綱目』『頭書增補節用集大全』『頭書大成節用集』刊。

元禄9（一六九六）年

『大広益節用集』『頭書增補節用集』『頭書增補節用集綱目』『頭書增補節用集大成』『頭書增補節用集大全』刊。

元禄10（一六九七）年

『頭書增字節用集大成』『頭書大成節用集』刊。

『大增字万宝節用集』『頭書增補大大節用集』このころ刊。

元禄11（一六九八）年

『頭書増補大成節用集』『頭書大成節用集』刊。

・大坂に重版類版停止令発令。

元禄12（一六九九）年

『頭書増補大成節用集』刊。

元禄13（一七〇〇）年

『三才全書俳林節用集』『新大成増字万宝節用集』『頭書増補節用集大全』『頭書増補大成節用集』『頭書増補宝鑑節用集』『頭書大成節用集』『万宝節用集』刊。

元禄14（一七〇一）年

『万宝節用集』刊。

元禄16（一七〇三）年

『頭書増字節用集大成』『頭書増補宝撰節用集』『大大節用集大家蔵』刊。

元禄17（一七〇四）年

『大広益拾遺節用集』『万宝節用集』刊。

宝永元（一七〇四）年

『大万宝節用集増字大成』このころ刊。

宝永2（一七〇五）年

『広益字尽重宝記綱目』『節用集大全』『頭書節用集大

全』『頭書増補大成節用集』刊。

・「從町方、三番所江書上候儀、当分之書物は文字慥二

相見候ハ、籠相成紙用之可申候、末々迄相殘候諸証

文等は、有来通之紙二相認可申候」（『御触書寛保集成』）

との触れあり。

宝永3（一七〇六）年

『万宝節用集』『大魁節用悉皆不求人』『大大節用集新

益大成』『万世節用集広益大成』刊。

宝永4（一七〇七）年

『大広益拾遺節用集』刊。

宝永5（一七〇八）年

『大魁節用悉皆不求人』『大增字万宝節用集』『福寿皆

無量節用大成』刊。

宝永6（一七〇九）年

『女節用集文字袋』『字林節用集拾遺大成』刊。

宝永7（一七一〇）年

『広大節用字林大成』『大海節用和国宝蔵』『大国花節

用集珍開蔵』『万年節用集大成』『立新節用和国宝蔵』

このころ刊。

正徳元（一七一）年



『广大節用大全無尽蔵』『宝林節用字海大成』このころ刊。

正徳2（一七一二）年

『万徳節用筆海類編』『万福節用大乘大尽』刊。

『大福節用集大蔵宝鑑』このころ刊。

正徳3（一七一三）年

『立新節用和国宝蔵』刊。

『頭書大益節用集綱目』このころ刊。

・宝永二年の触れ、再触れ。

正徳4（一七一四）年

『大国花節用集珍開蔵』『宝林節用字海大成』刊。

『錦字節用無窮成』『字福節用大黒袋』『大船節用字林

大成』『福寿節用文章淵海』『宝山節用万字図彙』

『万万節用福德宝蔵』このころ刊。

正徳5（一七一五）年

『大国花節用集珍開蔵』刊。

『大広益節用不求人大成』『和光節用集百寿丸』このこ

ろ刊。

正徳頃

『广大節用大全無尽蔵』『大魁節用悉皆不求人』このこ

ろ刊。

享保元（一七一六）年

『男節用集如意宝珠大成』刊。

・徳川吉宗、將軍に着任。享保の改革はじまる。

・京都の本屋仲間、官許。

享保2（一七一七）年

『懷宝節用集綱目大全』『広益節用集』『大益字林節用

不求人大成』『大国花節用集珍開蔵』『和漢音積書言字

考節用集』『和光節用集百寿丸』刊。

享保3（一七一八）年

『万福節用世宝集』『満字節用錦字選』刊。

享保4（一七一九）年

『大嘉節用無量宝蔵』『大広益節用集』『万倍節用字便』

刊。

享保5（一七二〇）年

『広徳節用満玉宝蔵』『女節用集文字袋家宝大成』『大

増字宝節用連玉』刊。

享保6（一七二一）年

『女節用集文字袋』『新補節用加増大成』『万花節用字

林大成』刊。

『万金節用永代通鑑』このころ刊。

・江戸の本屋仲間、官許。

享保7（一七二二）年

『如意節用宝集大成』『万海節用富貴藏』刊。

・出版取締令発令。

享保8（一七二三）年

『広益字尽重宝記綱目』『万世節用集広益大成』刊。

・大坂の本屋仲間、官許。

享保9（一七二四）年

『万海節用和国宝藏』『大海節用和国宝藏』刊。

享保10（一七二五）年

『増続字海節用大湊』『大富節用福寿海』『頭書増補節

用集大成』刊。

享保11（一七二六）年

『万倍節用字便』刊。

享保12（一七二七）年

『万図節用福字通便』刊。

享保13（一七二八）年

『増続字海節用大湊』刊。

享保14（一七二九）年

『広大節用字林大成』『寿海節用万世字典』『新増加節

用懷珠大全』『万花節用字林大成』刊。

享保15（一七三〇）年

『大増字宝節用連玉』『年代節用集万宝大成』『満字節

用書翰宝藏』刊。

享保18（一七三三）年

『悉皆世話字彙墨宝』『増続字海節用大湊』『大富節用

福寿海』『大万宝生節用集』『宝玉節用万福藏』『万代節

用悉皆字彙』刊。

享保19（一七三四）年

『四海節用錦繡囊』万藏節用字海大成』刊。

享保頃

『珠玉節用万代宝匣』（元禄三年刊『新撰節用集』の改

題本）『増補節用万合宝鑑』『大國節用群玉藏』刊。

元文元（一七三六）年

『男節用集如意宝珠大成』刊。

元文2（一七三七）年

『新增節用無量藏』刊。

元文3（一七三八）年

『大万宝節用集字海大成』刊。

元文5（一七四〇）年

『森羅万象要字海』『大万宝節用集字海大成』刊。

元文6（一七四一）年

『倭節用悉改囊』刊。

寛保2（一七四二）年

『万国通用要字選』『万凶節用福字通便』刊。

寛保3（一七四三）年

『女節用集罌粟囊家宝大成』『百花節用字林大成』

『万花節用字林大成』刊。

延享元（一七四四）年

『増統字海節用大湊』『大富貴節用万字綱目』『豊栄

節用世宝蔵』『蠡海節用集』刊。

延享2（一七四五）年

『玉海節用字林蔵』『篆字節用千金宝』刊。

『豊栄節用世宝蔵』このころ刊。

延享4（一七四七）年

『大万宝節用集字海大成』『万通節用福寿海』刊。

延享頃

『翰墨節用集身宝大成』刊。

寛延元（一七四八）年

『豊栄節用世宝蔵』刊。

寛延2（一七四九）年

『永代節用大全無尽蔵』『大広益字尽重宝記綱目』『文  
海節用千金囊』刊。

寛延3（一七五〇）年

『永代節用大全無尽蔵』『懷宝節用集綱目大全』『新增  
節用無量蔵』『袖宝節用集』『蠡海節用集』刊。

・江戸本屋仲間南組、類版停止の撤廃を要求。

寛延4（一七五一）年

『四海節用錦繡囊』『字典節用集』刊。

宝暦2（一七五二）年

『永代節用大全無尽蔵』『新增加節用懷珠大全』『(一)宝暦

新撰』早引節用集』（初の早引節用集）『頭書増補節用

集大成』『日本節用集』『明海節用正字通大成』『倭漢節

用無双囊』刊。

宝暦3（一七五三）年

『新万倍節用宝』『明海節用正字通大成』『倭節用悉改

囊』刊。

宝暦4（一七五四）年

『蠡海節用集』刊。

宝暦6（一七五六）年

『大節用文字宝鑑』『文会節用集大成』『宝曆節用字海』刊。

『万世節用集広益大成』このころ刊。

宝曆7（一七五七）年

『五車拔錦』『増補改正』早引節用集』『大大節用集万字海』『文翰節用集』刊。

宝曆8（一七五八）年

『袖中節用集』『福神節用太平楽』『浪江節用集』刊。

宝曆9（一七五九）年

『新撰部分節用集』（宝曆六年刊）『大節用文字宝鑑』の改題改修本』刊。

宝曆10（一七六〇）年

『増字百倍』早引節用集』（早引節用集初の真草二行表示）刊。

宝曆11（一七六一）年

『書札節用要字海』『早考節用集』『百川学海錦字選』刊。

宝曆12（一七六二）年

『女節用集文字囊』『増補改正』早引節用集』『早字二重鑑』（真字版、草字版）『大大節用集万字海』『倭節用

悉改囊』『蠡海節用集』刊。

宝曆13（一七六三）年

『字彙節用悉皆蔵』『万歳節用字宝蔵』刊。

宝曆頃

『大福節用集大蔵宝鑑』刊。

明和3（一七六六）年

『万代節用字林宝蔵』『和漢音釈書言字考節用集』刊。

明和5（一七六八）年

『早引節用集』『大大節用集万字海』『百川学海錦字選』『連城節用夜光珠』刊。

明和6（一七六九）年

『新撰正字通』『増字百倍』早引節用集』『男節用集如意宝珠大成』『百万節用宝来蔵』『万歳節用字宝蔵』『連城大節用集夜光珠』『蠡海節用集』刊。

明和7（一七七〇）年

『永代節用大全無尽蔵』『増補改正』早引節用集』『文翰節用通宝蔵』刊。

明和8（一七七二）年

『広益好文節用集』『明和新編』早引大節用集』『満字節用錦字選』刊。

明和9（一七七二）年

明和9（一七七二）年

『字引節用集』刊。

安永2（一七七三）年

『類字新撰』字引節用集』『森羅万象要字海』『大新增節用無量藏』『通俗節用集類聚宝』『倭節用集悉改囊』『大魁訓蒙品字選』刊。

安永3（一七七四）年

『広益好文節用集』刊。

安永4（一七七五）年

『新增早引節用集』『大栄節用福寿蔵』刊。

安永5（一七七六）年

『増字百倍』早引節用集』『増補改正』早引節用

集』『倭節用集悉改囊』刊。

安永6（一七七七）年

『大豊節用寿福海』刊。

安永7（一七七八）年

『急用間合即坐引』『字林節用五嶽篇』刊。

安永8（一七七九）年

『拾玉節用集』刊。

安永9（一七八〇）年

『新撰正字通』『増字百倍』早引節用集』『急用間合即

坐引』刊。

安永頃

『明海節用大成』刊。

天明元（一七八一）年

『増補改正』早引節用集』『大広益字尽重宝記綱目』刊。

天明2（一七八二）年

『大成正字通』『万代節用字林蔵』『万徳節用集』『急用間合即坐引』刊。

天明3（一七八三）年

『合類節用無尽海』刊。

天明4（一七八四）年

『倭漢節用無双囊』刊。

天明5（一七八五）年

『早引残字節用集』『早考節用集』『日本節用万歳蔵』刊。

天明6（一七八六）年

『急用間合即坐引』『字典節用集』『増字百倍』早引節用集』刊。

天明8（一七八八）年

『増補改正』早引節用集』『万宝節用富貴蔵』『大全早引節用集』（ただし、『増字百倍』早引節用集』と『早

『引残字節用集』の合冊) 刊。

天明9 (一七八九) 年

『袖中節用集』刊。

寛政元 (一七八九) 年

『急用間合即坐引』(合冊体『錦囊万家節用宝』として)

『森羅万象要字海』『新撰正字通』刊。

寛政2 (一七九〇) 年

『早引節用集』刊。

寛政3 (一七九一) 年

『字典節用集』刊。

寛政4 (一七九二) 年

『画引節用集大成』『節用福聚海』(『太平節用福寿往来』

頭書) 刊。

寛政5 (一七九三) 年

『(増補改正) 早引節用集』『蠡海節用集』『宝林節用集』

『大全早引節用集』(ただし、『(増字百倍) 早引節用集』

と『早引残字節用集』の合冊) 刊。

寛政6 (一七九四) 年

『急用間合即坐引』『掌中節用急字引』『満字節用錦字

選』刊。

寛政7 (一七九五) 年

『(増補改正) 早引節用集』『万代節用字林蔵』『満字節

用錦字選』刊。

寛政8 (一七九六) 年

『絵引節用集』『字貴節用集』『字典節用集』『(増字百倍)

早引節用集』『大全早引節用集』『万代節用字林蔵』刊。

寛政9 (一七九七) 年

『書札節用要字海』刊。

寛政11 (一七九九) 年

『(増補改正) 早引節用集』『大広益字尽重宝記綱目』『大

豊節用寿福海』『倭漢節用無双囊』刊。

寛政12 (一八〇〇) 年

『(増字百倍) 早引節用集』刊。

寛政13 (一八〇一) 年

『都会節用百家通』刊。

寛政頃

『男節用集如意宝珠大成』刊。

享和2 (一八〇二) 年

『手引節用集大全』『大成正字通』『万宝節用富貴蔵』『字

引節用』刊。

享和3（一八〇三）年

『満字節用錦字選』『新板引方早字節用集』（巻頭の「字  
引目録」の有無で二種あり）刊。

文化元（一八〇四）年

『字会節用集永代蔵』『増補改正』早引節用集』『偶奇  
仮名引節用集』（長半仮名引節用集）と改題するもの  
もあり）『文翰節用通宝蔵』刊。

文化2（一八〇五）年

『大全早引節用集』『万家日用』字引大全』刊。

文化3（一八〇六）年

『字貫節用集』『増字百倍』早引節用集』『万代節用字  
林蔵』刊。

『万宝節用富貴蔵』の合冊版、この年以降刊。

文化4（一八〇七）年

『長半仮名引節用集』刊。

文化5（一八〇八）年

『手引節用集大全』刊。

文化6（一八〇九）年

『増補改正』早引節用集』『訂正増益』早引節用集』  
『世用万倍』早引大節用集』刊。

文化7（一八一〇）年

『見出絵引節用集大全』『国宝節用集』『節用早指南』『俗字  
早指南』（節用早指南）と合冊』『増補節用字海大成』刊。

『満字節用錦字選』このころ刊。

文化8（一八一一年）年

『急要節用集』『字彙節用悉皆蔵』『大全早引節用集』『都  
会節用百家通』『日本節用万歳蔵』『万宝節用富貴蔵』『満  
字節用錦字選』刊。

文化9（一八一二年）年

『懷宝節用集綱目大全』『増字百倍』早引節用集』『万  
海節用字福蔵』刊。

文化11（一八一四年）年

『手引節用集大全』『増補改正』早引節用集』（五行版、  
六行版）『大万宝節用集字海大成』刊。

文化12（一八一五年）年

『増補改正』早引節用集』『日本節用万歳蔵』『蘭例節  
用集』刊。

文化13（一八一六年）年

『いろは節用集大成』『万海節用字福蔵』刊。  
『万海節用字福蔵』（合冊体）この年以降刊。

文化14（一八一七）年

『字典節用集』『大全早引節用集』刊。

文化15（一八一八）年

『字宝節用集千金藏』刊。

文政元（一八一八）年

『玉海節用字林藏』『大豊節用寿福海』（合冊体）『万会節用百家選』として）『倭節用集悉改囊』『和漢音積書言字考節用集』刊。

文政2（一八一九）年

『増補改正』早引節用集』『都会節用百家通』『文会節用集大成』刊。

文政3（一八二〇）年

『寺子節用集』『長半仮名引節用集』刊。

文政5（一八二二）年

『五車拔錦』『字典節用集』『掌中節用急字引』『新撰正字通』『節用大全』『節用福聚海』『早字引大正』刊。

文政6（一八二三）年

『掌中節用急字引』『増字百倍』早引節用集』『俳字節用集』『豊栄節用世宝藏』刊。

文政7（一八二四）年

『絵引節用集』『増加節用集』刊。

『倭節用集悉改囊』『万宝節用富貴藏（？）』、公家鑑の東西本願寺の順序の相違したものを刊行したか。

文政8（一八二五）年

『早字節用』刊。

『都会節用百家通』、公家鑑の東西本願寺の順序の相違したものを刊行。刊記は文政二年。

文政9（一八二六）年

『倭節用集悉改大全』刊。

巻頭付録三〇丁を補った別版もこの年の刊年を記す。

文政10（一八二七）年

『書札節用要字海』『大広益節用不求人大成』『大全早引節用集』刊。

文政11（一八二八）年

『大万蔵節用字海大全』刊。

文政12（一八二九）年

『増補改正』早引節用集』『早字節用』『文宝節用集』刊。

文政13（一八三〇）年

『永代節用無尽蔵』（特装版）『増字百倍』早引節用集』『早字節用』『大宝節用集文林蔵』刊。



文政頃

『篆字節用千金宝』刊。

天保2（一八三二）年

『永代節用無尽蔵』『字林節用五嶽篇』『早字節用集』刊。

天保3（一八三二）年

『増加節用集大全』『増補広益好文節用集』『大全早引節用集』刊。

天保6（一八三五）年

『（増字百倍）早引節用集』刊。

天保7（一八三六）年

『（増字百倍）懷宝節用集』『（増補改正）早引節用集』

『大全早引節用集』『都会節用百家通』刊。

天保8（一八三七）年

『日本節用万歳蔵』刊。

天保9（一八三八）年

『字典節用集』刊。

天保11（一八四〇）年

『懷玉節用集』『新万倍節用宝』『文宝節用集』『和漢音

釈書言字考節用集』刊。

天保12（一八四一）年

『寺子節用集』『掌中要字選』『（以呂波引）大全節用集』

・天保の改革はじまる。株仲間解散令発令。

天保13（一八四二）年

『十三門部分音訓正誤』大全早字引』『（増補）二体節

用集』刊。

・本屋仲間解散令発令。

天保14（一八四三）年

『（早引）永代節用集』『懷宝節用集』『（増補改正）早

引節用集』『（掌中）早引節用集』『（増字百倍）早引節

用集』『早引節用集』（吉田屋版。三河屋Ⅱ菊地版。菊

屋版）『早引文寿節用集』『早字引節用集』『大全節用集』

『大全早引節用集』『大全早字引節用集』（大文字屋ほ

か版。播磨屋版）『訂正早字引』刊。

天保15（一八四四）年

『懷玉節用集』『節用字便』『（懷宝）数引節用集』刊。

天保頃

『（新增四声）節用大全』刊。

弘化元（一八四四）年

『（増字百倍）早引節用集』刊。

弘化3（一八四六）年

『増補改正伊呂波音訓』数引節用集』『和漢音釈書言  
字考節用集』刊。

弘化5（一八四八）年

『増字万倍』数引節用集』刊。

嘉永元（一八四八）年

『寺子節用』早引節用集』『増補改正』早引節用集』刊。

嘉永2（一八四九）年

『新いろは節用集大成』『早引節用集』（早引字会節用  
集）『大成無双節用集』『大日本永代節用無尽蔵』『増  
字百倍』早引節用集』（金幸堂版）刊。

嘉永3（一八五〇）年

『早引』永代節用集』『懷玉節用集』『懷宝数引節用集』

『早引節用集』『早引』万代節用集』刊。

嘉永4（一八五二）年

『字宝節用集千金蔵』『新板引方早字節用集』『増字百  
倍』早引節用集』『増補音訓』大全早引節用集』刊。

『字会節用集永代蔵』このころ刊。

・本屋仲間再興令発令。

嘉永5（一八五二）年

『節用早見二重引』刊。

嘉永6（一八五三）年

『早引万代節用集』『早引万宝節用集』『早字二重鑑』刊。

嘉永7（一八五四）年

『真草両点』数引節用集』『早引通字節用集』『大栄節  
用福寿蔵』『大全早引節用集』刊。

安政2（一八五五）年

『嘉永早引節用集』『雅俗幼学新書』刊。

安政3（一八五六）年

『懷宝数引節用集』『早引節用集』（吉田屋版）『増補』  
早引節用集』『和漢音釈書言字考節用集』刊。『字会節  
用集永代蔵』（合冊体）このころ刊。

安政4（一八五七）年

『字宝節用無双大成』『字宝早引節用集』（合冊体もあ  
り）『日本節用無双大成』。

安政5（一八五八）年

『いろは節用集大成』『手紙早引節用集』刊。

安政6（一八五九）年

『増統字海節用大湊』『増補再刻』大全早字引節用集』刊。  
安政頃

『増補早引』いろは節用集』刊か。

万延元（一八六〇）年

『早引節用集』（外題「通俗早引節用集」）『大全早引節用集』『長半仮名引節用集』『和漢音釈書言字考節用集』刊。

文久元（一八六二）年

『早引節用集』（文江堂版）『万寿早引節用集』『和漢音釈書言字考節用集』刊。

文久2（一八六二）年

『増補改正』早引節用集』『掌中』早引節用集』『早引万代節用集』『万代節用字林蔵』『蠡海節用集』刊。

文久3（一八六三）年

『江戸大節用海内蔵』『増補改正』早引節用集』『増加節用集大全』『大全早字引節用集』『大福節用無尽蔵』『訂正早字引』『万世早引増字節用集』（付録増補版もあり）

『万代節用字林蔵』（補刻版）刊。

文久4（一八六四）年

『大日本永代節用無尽蔵』刊。

元治元（一八六四）年

『字典節用集』『増補音訓』大全早引節用集』刊。  
元治2（一八六五）年

『安政早引節用集』刊。

慶応元（一八六五）年

『増補早引』いろは節用集』『雅俗幼学新書』『懷宝数引節用集』刊。

慶応2（一八六六）年

『用文早引節用集』刊。  
慶応3（一八六七）年

『早引万宝節用集』『早引』万代節用集』刊。

刊年未詳本

\*推定される刊行年代の順にしめし、推定の手がかりとなることがらを付記する。

寛永・寛文ごろ以降

『真草二行節用集』イ部標目「以」字。書名・体裁より。  
『福寿節用綱鑑』岡島昭浩氏蔵。半切横本。体裁より。

『増益節用集大全』古書店目録。書名より。

貞享ごろ以降

『初学節用集大成』付録・頭書より。  
『字海節用大林綱目』国語研究所蔵。付録・頭書より。

天保以降

『真草両点』いろは節用集』三切横本。この判型の

早引節用集は天保ごろから増える。

『増字百倍』改正早引節用』三切横本。

『増字百倍』早引節用集』三切横本。吉田屋版。

『増字百倍』早引節用集』三切横本。菊屋ほか版。

『新增早引節用集』三切横本。

『早引節用集』三切横本。山城屋平助版。

『早引節用集』三切横本。近江・吉田版。

『早引節用集』三切横本。吉田・近江版。

『増補改正』早引節用集』三切縦本。山形・北条忠兵衛版。北条には天保ごろの出版書が多い。

『増補数引』いろは節用集』半切横本。早引節用集の

厚冊は天保以降に多い。

\*本稿は、日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (A) 「日本における書物・出版と社会変容」(一) 橋大学大学院・若尾政希)、同 (C) 「近世辞書の学際的・言語生活史的研究のための基礎研究」(佐藤) の研究成果の一部である。